

2024年度前期における「学生による授業評価アンケート」に対するコメント

2024年度前期における「学生による授業評価アンケート」の実施に際しましては、ご協力いただいた学生の皆様並びに非常勤講師の皆様、専任教員の皆様に感謝申し上げます。

以下に、2024年度前期「学生による授業評価アンケート」の全体の結果を概観していくことにいたします。まず回答者数ですが、全科目における延べ受講者数10097人に対しまして総回答者数は6334人であり、回答率は約63%となりました。直近の2023年度後期は約48%、前期は約57%でしたので、増加傾向にあると思われれます。本アンケートの実施方法をユニバーサルパスポートを用いての方式に変更して以来、回答率が上がらない状況が続いておりましたので、FD・SD委員会としましては本アンケートの回答率の向上を重要課題と位置付け、皆様に協力依頼を行ってまいりました。しかしながら、なかなか改善には至らず、回答率は40%代後半から50%代後半を推移しておりました。今期におきましてようやく改善傾向がみられましたのでこれを契機として、後期における本アンケートの回答率80%を目標とし、引き続き工夫を行って参ります。現在、FD・SD委員会では、回答者である学生の立場に立ち、より回答しやすい方法で学修上有益なフィードバックが得られる授業評価アンケートを目指して、検討を進めています。どうかご理解いただきまして、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、回答率が向上したとはいえ回答率は80%未満でしたので、結果の解釈には慎重であるべきことを踏まえまして、以下に今年度前期における全体的な特徴を述べていくことにします。まずA領域の「あなた自身について」ですが、平均値が最も高かったのは「①この授業への出席割合」(4.43)であり、次いで「②授業に積極的に参加した」(4.30)でした。また、「⑥この授業全般において満足である」(4.19)と「④授業を受けて関連領域をさらに深く勉強したくなった」(4.01)も平均値は4点を超えており、「⑤シラバスに掲げられている到達目標を達成できそうだ」に関しては3.98でした。このように、A領域のほとんどの項目において平均値が5点満点中4点を超えていました。こうした傾向はここ数年同様であることから考えますと、多くの学生さんは「授業の出席率は非常に高く、尚且つ、授業には積極的に参加したということ、そして、授業で学修した領域をさらに深く学びたいと思うようになり、シラバスに掲げられている到達目標を達成できそうだと感じている」、このように自身の学修状況を認識していることがうかがえます。そして、学修状況をこのように認識しているために、授業全般に対する満足度も高いものになっていたのだと思われれます。本アンケート結果からは、このように推測することが可能かと思われれます。

次に、B領域の「授業や教員の教え方について」ですが、平均値が最も高かったのは「⑦学生が集中しやすい授業だった」(4.23)と「⑩授業の学習目標を学生に伝えていた」(4.23)の2項目でした。また、「⑨学生の理解度を確認しながら授業が行われていた」の平均値は4.04であり、「⑧授業は質問や意見などを発言しやすい様子であった」の平均値は3.91でした。このようにほぼ全項目において、平均値は5点満点中4点を超えていました。こうした傾向は、A領域同様、ここ数年同様であることから考えますと、多くの学生さんは教員の授業運営に対する認識として、「教員は学習目標を伝え、個々の受講生の理解度に気を配りながら、授業に集中できるように教室をコントロールし、質問にも応じていた」というように認識していたと推測されます。

A領域、B領域の結果をまとめますと「授業中において、受講生は積極的に集中して取り組み、到達目標を達成できそうな程度に学修できており、さらに学んでいきたいと思っている」、そして「教員は受講生が学習しやすい環境を整えている」、本学の多くの学生さんは授業に対してこのような認識を持っていることが推測されます。そして、授業評価におけるこうした傾向がここ数年同様であることから考えますと、真摯な姿勢や態度をもって学生も教員も共に授業に取り組んでいるということが、本学における教育活動の大きな特徴の1つになっていると思います。さらには、ここ数年におけます各資格の国家試験の合格率、及び、全学的な就職率の高さは、授業評価アンケートの結果として表れている学修姿勢や態度をもって授業を中心とした学修活動に臨み、そうした学修を積み重ねてきた結果であり、個々の学生さんの成長の証といえるでしょう。

しかしながら、本学の大きな課題の1つである受講生の予習や復習といった授業外学習時間については、まだ十分とはいえない状態だと思われれます。学修者本位の教育が展開されていくためには、受講生が授業時以外でも主体的に積極的に学修していく必要があります。したがって、授業時以外でも受講生が主体的に学修していくことができる授業作りとそのための支援の在り方を検討していくことが、授業の質をあげていくということであり、このことが本学に求められている現在の最重要課題といえます。引き続き一人ひとりの学生さんとの丁寧な対話を続けていくことによって、この課題の解決をめざしていきたいと思っております。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

授業評価アンケート

2024年度 前期

授業コード：

授業科目名： 全 体

受講者数： 10097名

担当教員名：

回答者数： 6334名

学科	人間科学部 社会福祉学科	人間科学部 医療福祉学科 介護福祉専攻	人間科学部 医療福祉学科 視能訓練専攻	人間科学部 子ども教育学科	人間科学部 社会創造学科	人間科学部 健康心理学科	人間科学部 医療心理学科 臨床発達心理専攻	人間科学部 医療心理学科 言語聴覚専攻	人間科学部 理学療法学科
	1197	0	325	712	174	1	7	0	0

学科	心理学部 心理学科	保健医療学部 理学療法学科	保健医療学部 作業療法学科	保健医療学部 言語聴覚学科	学年	1年次	2年次	3年次	4年次
	1777	1210	443	488		2941	2065	982	346

設問No	設問文	1	2	3	4	5	*全平均
		そう思う	やや そう思う	どちらでも ない	あまりそう 思わない	そう 思わない	

A.あなた自身について

①	この授業への出席割合は 1.毎回 2.ほとんど 3.3分の2ぐらい 4.半分ぐらい 5.半分未満	3491	2093	594	38	49	4.43
②	授業に積極的に参加した	3105	2267	674	144	78	4.30
③	この授業1回あたりで予習や復習に費やした時間は 1.2時間以上 2.1時間以上~2時間未満 3.30分以上~1時間未満 4.30分未満 5.全くしていない	385	708	1534	1910	1774	2.37
④	授業を受けて、関連領域をさらに深く勉強したくなった	2286	2469	1034	300	193	4.01
⑤	シラバスで掲げられている到達目標を達成できそうだと	2022	2615	1294	234	120	3.98
⑥	この授業全般についてあなたは 1.満足である 2.やや満足である 3.どちらでもない 4.やや不満である 5.不満である	2863	2094	1037	168	99	4.19

B.授業や教員の教え方について

⑦	学生が集中しやすい授業だった	3045	2023	874	211	106	4.23
⑧	授業は質問や意見などを発言しやすい様子であった	2384	1835	1376	425	251	3.91
⑨	学生の理解度を確認しながら授業が行われていた	2576	2055	1132	322	179	4.04
⑩	授業の学習目標を学生に伝えていた	3029	2025	917	168	110	4.23

